

島根県立大学出雲キャンパス  
紀要 第8巻, 47-56, 2013

## 島根県西部地区出身看護学生の 就職先選択要因に関する調査

多々納憂子・平塚 知子・石橋 照子・狩野 鈴子・別所 史恵  
加藤 真紀・石橋 鮎美・坂根可奈子・矢富 孔寅・上田 英和

### 概 要

島根県西部地区出身の看護学生の就職先選択要因について明らかにすることを目的とし、過去5年間に島根県立大学短期大学部看護学科を卒業した西部地区就職者4名、東部地区就職者9名の合計13名にインタビュー調査を行った。就職先を選択した要因、西部地区の病院に就職しなかった要因、就職先を選択して良かったこと、西部地区への就職率増加につながると思うこと、島根県立大学に求める支援の5つの視点に沿って分析した。その結果から、病院との連携をさらに図りながら現在のキャリア支援を継続していくとともに、卒業後のフォローアップ体制についてもさらに検討していく必要があると考える。

キーワード：島根県西部地区 看護学生 就職先 選択要因

### I. はじめに

島根県は地理的に東西に長く、人口は西部が3割、東部が7割を占めている。医療提供体制については、三次医療機能の救命救急センター、特定機能病院の県内4病院のうち松江・出雲圏域に3病院があり、医師の7割が勤務しているなど、医療資源が東部地区に偏在している。島根県の地域医療再生計画においても、看護職員の不足数の解消を目指して看護師等確保対策の効果が一層上がるよう、県内進学と県内就業の促進の必要性を述べている（島根県，2011）。

島根県立大学短期大学部看護学科の前身である島根県立看護短期大学が設置されてから18年が経過した。この間に社会状況は、過疎化・少子高齢化の一層の進行、情報通信技術の進展、人々の健康に対する意識の高まりなど大きく変化してきている。看護教育や、看護職を取り巻く状況も、医療技術の急速な進展、高齢者の保健・医療・福祉政策の充実など、大きく変化しつつある。このような変化に対応するため、島

根県立大学（以下、本学とする）では平成24年4月に、より高度な看護学を教育研究する四年制の看護学部を設置した。

島根県立大学短期大学部看護学科の卒業生の2割程度が島根県西部地区出身者であるが、そのうち卒業後西部地区に就職した者は、西部地区出身者の1割程度、全体の1～2%程度である。島根県が実施した県内病院における看護職員実態調査（島根県健康福祉部医療政策課，2012）によると、看護職員の充足率は、県全体で96.0%であり、中山間、離島地域にある施設はもとより、都市部の大規模施設においても看護職員が不足している。特に、西部地区では、一部の病院が看護職員の不足により病棟休止や入院制限を行うなど、適切な医療の提供に支障を来している現状がある。そのため、島根県の医療の均衡化を目指し、本学においても西部地区への就職に必要な支援内容について検討する必要があると考える。また本学憲章には、「地域社会の活性化と発展に寄与する人材を養成することを使命とする」「地域のニーズに応え、地域と協働し、地域に信頼される大学の実

現」が挙げられており、本調査の結果から学生の就職先選択要因を明らかにし、西部地区への就職に必要な支援内容について明らかにすることで、地域貢献の一助となることが期待できる。

看護学生の就職先選択に関する先行文献では、選択要因や就職支援について明らかにされているが、インタビュー調査により本人の語りからそれらを明らかにしているものはない。また、看護学生の就職先選択に関する島根県内での調査は見当たらない。よって、島根県西部地区出身の看護学生の就職先選択要因について明らかにし、本学のキャリア支援のあり方を検討することは意義があると考えられる。

## Ⅱ. 目 的

島根県西部地区出身の看護学生の就職先選択要因について明らかにすること。

## Ⅲ. 方 法

### 1. 対象者

過去5年間に島根県西部地区出身で島根県立大学短期大学部看護学科を卒業した者のうち、調査協力の得られた西部地区就職者4名、東部地区就職者9名の合計13名を調査対象とした。対象者の看護師経験年数は1～5年で、平均経験年数 $3.0 \pm 1.4$ 年であった。卒業後すぐに就職した現在の勤務病院は、すべて総合病院であった。

### 2. 調査方法

調査は、インタビューガイドを用いた半構成面接によって行った。プライバシーの守られる個室を確保し、フォーカス・グループ・インタビューを実施したが、日程調整がつかない際には個別インタビューを実施した。フォーカス・グループ・インタビューは、東部地区就職者7名を3名と4名に分け、2回実施した。その他の東部地区就職者2名、西部地区就職者4名はそれぞれ個別インタビューを実施した。インタビュー回数は1回とし、インタビュー時間は、約40～70分であった。インタビュー内容は、調査協力者の承諾のもとICレコーダーで録音

した。

### 3. 調査内容

インタビューガイドは、以下の通りである。

#### 西部地区就職者に対して

- ・西部地区へ就職をした一番の理由
- ・西部地区への就職を選択して良かったこと
- ・西部地区への就職率増加につながると思うこと
- ・島根県立大学に求める支援

#### 東部地区就職者に対して

- ・東部地区へ就職をした一番の理由
- ・西部地区へ就職をしなかった理由
- ・東部地区への就職を選択して良かったこと
- ・西部地区への就職率増加につながると思うこと
- ・島根県立大学に求める支援

### 4. 調査期間

データ収集は平成25年7～8月に実施した。

### 5. 分析方法

ベレルソンの内容分析の方法に基づき、以下のとおり分析した。

- 1) 島根県西部地区出身の看護学生の就職先選択要因に関すると思われる文脈を記録単位として抽出した。
- 2) 抽出した記録単位を意味内容の類似性に従って分類し、その内容にあった命名をした。
- 3) カテゴリに分類された記録単位数を算出した。

### 6. 倫理的配慮

本調査の目的および方法、調査への協力は自由であること、また一度同意した場合であっても辞退することが可能であることについて文書と口頭で説明し、同意書への署名をもって承諾を得た。インタビューで得られたデータは厳重に保管し、調査終了後には破棄すること、個人情報保護することについて確約した。なお、本調査は、島根県立大学出雲キャンパス研究倫理審査委員会で承認を得た。

## IV. 結 果

就職先を選択した要因、西部地区の病院に就職しなかった要因、就職先を選択して良かったこと、西部地区への就職率増加につながると思うこと、島根県立大学に求める支援の5つの視点に沿って分析した。

【 】内はカテゴリ、〔 〕内は各カテゴリを形成した記録単位数とそれが記録単位数に占める割合を示し、インタビューで得られた語りを「 」内に示す。

### 1. 西部地区就職者が就職先を選択した要因 (表1)

本項目では16カテゴリ、37記録単位を抽出した。

【住み慣れた地元の病院で働きたい】〔5記録単位：13.5%〕は「地元が落ち着く」「高校の時に実習に来たことがあるし、おじいちゃんも入院したことがあったりして馴染みがある」「慣れた地元の知っている病院」等の語りから形成された。

【自分のやりたい看護ができる】〔4記録単位：10.8%〕は「安定期というか(経過の)長い患者さんもいっぱいおられてゆっくり関わられる」「処置っていう業務より患者さんにもっとしっ

表1 西部地区就職者が就職先を選択した要因を表すカテゴリと記録単位数

カテゴリ名	記録単位数	%
① 住み慣れた地元の病院で働きたい	5	13.5
② 自分のやりたい看護ができる	4	10.8
③ 西部に帰って就職するだろうという漠然とした感情がある	4	10.8
④ 知人が就職病院で働いている	3	8.1
⑤ 家族が西部就職を勧めた	3	8.1
⑥ 実家から通勤できる	3	8.1
⑦ 親元にいたら安心できる	3	8.1
⑧ 地元地域に貢献したい気持ちがある	2	5.4
⑨ 就職病院が経済的に安定している	2	5.4
⑩ お世話になった人に恩返しをしたい	2	5.4
⑪ 地元が好き	1	2.7
⑫ 同じ病院に就職する仲間がいた	1	2.7
⑬ 院内保育がある	1	2.7
⑭ 病院の離職率が低い	1	2.7
⑮ 教育体制がしっかりしている	1	2.7
⑯ 奨学金をもらっていた	1	2.7
合計	37	100.0

表2 東部地区就職者が就職先を選択した要因を表すカテゴリと記録単位数

カテゴリ名	記録単位数	%
① 学校の近くや実習施設に就職したい	13	19.4
② 教育体制の整った東部の病院で働きたい	9	13.4
③ 同じ出身校からの同期と一緒に働きたい	7	10.4
④ 家族や周囲の人が東部就職を勧めた	6	9.0
⑤ 若いうちにしっかり経験を積みたい	6	9.0
⑥ 最初に大病院で就職した方が有利である	4	6.0
⑦ 自分のやりたい看護ができる	4	6.0
⑧ 実習中に出会った先輩看護師に憧れた	3	4.5
⑨ 東部は住みやすい	2	3.0
⑩ 管理者による魅力的な就職ガイダンスを受けた	2	3.0
⑪ しっかりとした看護実践をしている病院で働きたい	2	3.0
⑫ 学生時代の生活拠点を移さずに働ける	2	3.0
⑬ 実習時の看護師の良いイメージがある	2	3.0
⑭ 休日に友人と会いやすい	1	1.5
⑮ 周りがうらやむ病院で働きたい	1	1.5
⑯ 7対1体制をとっている病院でゆとりのある看護を学んで実践したい	1	1.5
⑰ 東部に交際相手がいた	1	1.5
⑱ 東部に単身赴任の親がいた	1	1.5
合計	67	100.0

かり近い感じの方がいい」等の語りから形成された。

【西部に帰って就職するだろうという漠然とした感情がある】〔4 記録単位：10.8%〕は「大学に入った時からここに戻ってくるんだろうなというような、何となく、何でっていったら困る」「何か戻るもんだって（思った）」等の語りから形成された。

## 2. 東部地区就職者が就職先を選択した要因

### （表 2）

本項目では 18 カテゴリ、67 記録単位を抽出した。

【学校の近くや実習施設に就職したい】〔13 記録単位：19.4%〕は「何となく雰囲気がわかるから安心感もあったし、実際に働いている看護師さんを見ているから自分が働き出した時のイメージが付きやすかった」「知らないところに飛び込む方が怖かった」「心の支えというか、助けてくれる人が近くにいた方がいい」等の語りから形成された。

【教育体制の整った東部の病院で働きたい】〔9 記録単位：13.4%〕は「新人教育がしっかりしていた」「卒後 3 年のところで病院が私をどうフォローしてくれるのかっていうことを中心に（就職先を）決めた」等の語りから形成された。

【同じ出身校からの同期と一緒に働きたい】〔7 記録単位：10.4%〕は「みんなが（東部の）A 病院にしようかなってなったので、受けようかなと思った」「一人で西部に帰るよりも学校が同じだった子と働きたい」「同期が多い」等の語りから形成された。

【家族や周囲の人が東部就職を勧めた】〔6 記録単位：9.0%〕は「県内だったら出雲（東部）が一番医療が発達しているから、最初はそういうところで働いてから戻ってきてもいいんじゃないって家族も言って」「親は東部でやってこい、帰ってこらんでいいっていう感じでしたね」等の語りから形成された。

【若いうちにしっかり経験を積みたい】〔6 記録単位：9.0%〕は「初めにしっかりいい技術を学びたい」「まず大きい病院で技術を身につけて、西部に帰って貢献できるのが一番理想的かなと思った」等の語りから形成された。

【最初に大病院で就職した方が有利である】〔4 記録単位：6.0%〕は「最初はある程度いろいろできるところに就職しておけば、次どこに行ってもある程度のことはできるんじゃないかと思う」等の語りから形成された。

【自分のやりたい看護ができる】〔4 記録単位：6.0%〕は「ドクヘリの影響力はすご強い」「先進医療と地域医療が調和している病院」等の語りから形成された。

## 3. 東部地区就職者が西部地区の病院に就職しなかった要因（表 3）

本項目では 20 カテゴリ、62 記録単位を抽出した。

【東部と比較して西部の病院は医療体制が十分でない】〔12 記録単位：19.4%〕は「患者さんは地元の病院に行ってもすぐに出雲（東部）に運ばれる」「実際に話を聞きに行ったときにも格差があるって思って、東部の方が西部よりも（医療が）進んでいる」等の語りから形成された。

【地元の病院の様子を詳しく知らない】〔11 記録単位：17.7%〕は「地元だけどうなっているのかわからない」「地元の病院でも行ったことがなくてあんまり知らない」「わからないことが多すぎるけん、自分の意識の中にも全然入ってこない」等の語りから形成された。

【西部の病院の実態を見て将来への不安がある】〔5 記録単位：8.1%〕は「病床数も減ったのでどんどん規模縮小しているのを実感して」「自分一人が戻ってもどうにかなるわけでもない」等の語りから形成された。

【西部の病院は教育体制が十分でない】〔4 記録単位：6.5%〕は「看護師さんが（教育に）慣れているのか」等の語りから形成された。

【西部は生活に不便である】〔4 記録単位：6.5%〕は「東部のように便利じゃない」「交通の便も不便」等の語りから形成された。

## 4. 西部地区就職者が就職先を選択して良かったこと（表 4）

本項目では 14 カテゴリ、28 記録単位を抽出した。

【少人数の新人就職者だから大切に育てても

らえる】〔8 記録単位：28.6%〕は「新人の頃はマンツーマンでついてくれるところは安心感がありました、守ってもらえる」「みんなで育てるって感じ」等の語りから形成された。

【ゆっくりとした教育体制である】〔4 記録単位：14.3%〕は「教育体制がゆっくりである」等の語りから形成された。

【自分のやりたい看護ができていける】〔3 記録単位：10.7%〕は「入院から退院まで一人の受け持ち看護師が密に関わってサポートしていける」「相談員や他職種と連携をして、退院まで家族の希望を聞きながら関わられる」「入院から退院までの流れが見える」等の語りから形成された。

【病院規模が小さく人とのつながりが密である】〔2 記録単位：7.1%〕は「小さい病院は小さいなりにみんなが友達になれる」等の語りから形成された。

【少人数の新人就職者だから比べられず連帯感が出る】〔2 記録単位：7.1%〕は「たくさん入らん分、みんなで見てくれるし、比べられるのもないかなと思って」「一人ができていないとみんなで勉強しなさいみたいと言われて連帯責任」等の語りから形成された。

5. 東部地区就職者が就職先を選択して良かったこと（表5）

本項目では2カテゴリ、2記録単位を抽出し

表3 東部地区就職者が西部地区の病院に就職しなかった要因を表すカテゴリと記録単位数

カテゴリ名	記録単位数	%
① 東部と比較して西部の病院は医療体制が十分でない	12	19.4
② 地元の病院の様子を詳しく知らない	11	17.7
③ 西部の病院の実態を見て将来への不安がある	5	8.1
④ 西部の病院は教育体制が十分でない	4	6.5
⑤ 西部は生活に不便である	4	6.5
⑥ 西部ではやりたい看護ができない	3	4.8
⑦ 西部地域での医師不足や看護師不足などの情報もつマイナスイメージがある	3	4.8
⑧ 西部の病院は医療体制が不十分でやりがいにつながらないイメージがある	3	4.8
⑨ 子どもの頃に感じた地元病院に対する旧病院の古くて小さいイメージがある	2	3.2
⑩ 東部の方が活性化しているという親のイメージがある	2	3.2
⑪ 西部の病院の就職試験面接官は怖い印象があった	2	3.2
⑫ 周囲から地元病院の悪い評判を聞いた	2	3.2
⑬ 西部地域はプライベートが充実しない	2	3.2
⑭ 学生時代のひとり暮らしが楽しかった	1	1.6
⑮ 友人に聞いた西部病院での実習体験のマイナスイメージがある	1	1.6
⑯ 就職ガイダンス時の看護師の印象が悪かった	1	1.6
⑰ 地元の病院は知人が多くて仕事がしづらい	1	1.6
⑱ 地元の病院が老朽化している	1	1.6
⑲ 西部での事件があり治安が悪いイメージがあった	1	1.6
⑳ 行きたい病院が実家から通勤可能な距離になかった	1	1.6
合計	62	100.0

表4 西部地区就職者が就職先を選択して良かったことを表すカテゴリと記録単位数

カテゴリ名	記録単位数	%
① 少人数の新人就職者だから大切に育ててもらえる	8	28.6
② ゆっくりとした教育体制である	4	14.3
③ 自分のやりたい看護ができていける	3	10.7
④ 病院規模が小さく人とのつながりが密である	2	7.1
⑤ 少人数の新人就職者だから比べられず連帯感が出る	2	7.1
⑥ 家族のサポートがある	1	3.6
⑦ 知人が就職病院で働いているから安心できる	1	3.6
⑧ 方言に困らない	1	3.6
⑨ 就職病院に誇れる活動がある	1	3.6
⑩ 病院の特性が自分の性格に合っている	1	3.6
⑪ 系列施設が多くライフスタイルに合わせて働ける	1	3.6
⑫ 患者さんと地元の話で盛り上がる	1	3.6
⑬ お世話になった人に看護師として恩返しできた	1	3.6
⑭ 在学中からの病院のオリジナルの支援があった	1	3.6
合計	28	100.0

表5 東部地区就職者が就職先を選択して良かったことを表すカテゴリと記録単位数

カテゴリ名	記録単位数	%
① 同じ出身学校の先輩がいる	1	50.0
② 医療者の知り合いの輪が広がる	1	50.0
合計	2	100.0

表6 西部地区への就職率増加につながると思うことを表すカテゴリと記録単位数

カテゴリ名	記録単位数	%
① 各病院のアピールポイントをつくる	12	34.3
② 西部地域の医療体制を整える	5	14.3
③ 西部地域が活性化する	5	14.3
④ 魅力的な就職ガイダンスをする	4	11.4
⑤ 西部の医療の現状に関心が向くような伝え方をする	3	8.6
⑥ 学生のニーズに合った奨学金制度を設ける	2	5.7
⑦ 西部の病院に就職した知人がいる	2	5.7
⑧ 院内保育施設を設置する	1	2.9
⑨ 在学中からの病院のオリジナルの支援がある	1	2.9
合計	35	100.0

た。

【同じ出身学校の先輩がいる】〔1 記録単位：50.0%〕は「同じ学校の先輩がいて良くしてくれる」の語りから形成された。

【医療者の知り合いの輪が広がる】〔1 記録単位：50.0%〕は「いろんな科の先生と関わりもあるし、(部署が異動すると)看護師同士も新しい出会いがあるし」の語りから形成された。

## 6. 西部地区への就職率増加につながると思うこと (表6)

本項目については、西部・東部地区就職者の語りを合わせて分析を行い、9 カテゴリ、35 記録単位を抽出した。

【各病院のアピールポイントをつくる】〔12 記録単位：34.3%〕は「その病院自体が力を入れている部分を大々的にアピールしていく」「自分たちのメリットになるような(病院の)売りをつくる」「もう少し興味をもつことを伝える」等の語りから形成された。

【西部地域の医療体制を整える】〔5 記録単位：14.3%〕は「スタッフがもう少し充実していたら良い」「いろんな分野の専門職がいたら良い」等の語りから形成された。

【西部地域が活性化する】〔5 記録単位：14.3%〕は「活気があれば人が集まる」「本当に何もないので、楽しみも出会いも少ないかもしれない」等の語りから形成された。

【魅力的な就職ガイダンスをする】〔4 記録単位：11.4%〕は「(就職説明を聞いて)楽しそう

だなっという印象が強くて」「パンフレットに書いてあること以外のこと聞きたい」「上手な説明を聞けば、視野になくても行きたいと思う」等の語りから形成された。

【西部の医療の現状に関心が向くような伝え方をする】〔3 記録単位：8.6%〕は「(悪い情報だけでなく)西部も整ってきているという真実を伝えないといけないと思う」等の語りから形成された。

## 7. 鳥根県立大学に求める支援 (表7)

本項目については、西部・東部地区就職者の語りを合わせて分析を行い、10 カテゴリ、70 記録単位を抽出した。

【実習を通して西部の病院の看護を知る機会を設ける】〔19 記録単位：27.1%〕は「実習をすれば病院の雰囲気とかもよく分かる」「実習で西部に行っていたら就職を視野に入れて考えていたと思う」「実際行ったら、絶対いい看護をしないと看護師さんもおるけん、この人みたいになりたいわって思う人も出てくると思う」等の語りから形成された。

【講義や進路セミナーを通して西部の病院の看護を知る機会を設ける】〔15 記録単位：21.4%〕は「西部の病院が看護師確保のためにどんなことに取り組んでいるのか、実際に就職するとどのようなことが学べるのかについて話してもらおう」「西部の病院とか在宅のこととか全然聞いたことがないから講義に来てもらえたら」等の語りから形成された。

表7 島根県立大学に求める支援を表すカテゴリと記録単位数

カテゴリ名	記録単位数	%
① 実習を通して西部の病院の看護を知る機会を設ける	19	27.1
② 講義や進路セミナーを通して西部の病院の看護を知る機会を設ける	15	21.4
③ 自分の目で西部の病院を知る機会を設ける	14	20.0
④ 西部で看護学科を開設する	10	14.3
⑤ 卒業生の先輩と個別に話す機会を設ける	5	7.1
⑥ 看護学科入試に石見A0枠を設ける	3	4.3
⑦ 浜田キャンパスの学生の力を地域活性化に役立てる	1	1.4
⑧ 浜田キャンパスで看護系大学院を開設する	1	1.4
⑨ 学校から西部の病院の情報を提供する	1	1.4
⑩ 自分の目で西部の地域医療の課題を知る機会を設ける	1	1.4
合計	70	100.0

【自分の目で西部の病院を知る機会を設ける】〔14 記録単位：20.0%〕は「病院へ見学に行くところとちょっと見方が変わってくるかもしれない」「いろんなところに行くっていう範囲を広げていくと環境も知るから、選ぶレパートリーが増える可能性はある」等の語りから形成された。

【西部で看護学科を開設する】〔10 記録単位：14.3%〕は「専門学校よりは大学に行きたいというニーズがあると思う」「大学ができれば図書館ができて専門書とか借りることができて助かる」等の語りから形成された。

【卒業生の先輩と個別に話す機会を設ける】〔5 記録単位：7.1%〕は「教育のこととか給料のこととか聞きたいことを何でも聞ける」「西部地区に就職した人に就職して良かったこと等を話してもらったり意見交換したり」「実際に働く人の話を聞いた方がイメージしやすい」等の語りから形成された。

## V. 考 察

### 1. 東部地区就職者の就職先選択要因について

東部地区就職者から就職先選択要因として抽出された【学校の近くや実習施設に就職したい】【同じ出身校からの同期と一緒に働きたい】【東部は住みやすい】【学生時代の生活拠点を移さずに働ける】【休日に友人と会いやすい】【東部に交際相手がいた】より、本学で3年間の学生生活を過ごす中で東部地区での生活に順応し、“馴染み”の関係や場所を築いている。就職先決定因子に関する先行調査では、就職先決定における情報収集手段については実習という卒業後の自分をイメージしやすい環境においての体験が最多にあげられている。そこでは実習をす

る中で、看護部の方針や雰囲気を知ることができ、また新人教育についても目の当たりにすることで自分の適正にあった病院や病棟について見出すことができると述べられている（増田，2010）。実習をする中で、現場の様子がわかる安心感があり、自分をどのように教育してもらえるのかをイメージしやすい慣れ親しんだ実習病院を就職先として選択していることが多いということが明らかになった。

一方で、【同じ出身校からの同期と一緒に働きたい】というカテゴリからは仲間と一緒に就職する安心感を求めて、周囲の友人の就職動向に影響されていることも示唆された。その影響であろうか、東部地区就職を選択して良かったことは【同じ出身学校の先輩がいる】【医療者の知り合いの輪が広がる】の2カテゴリ、2記録単位のみであった。西部地区就職者に見られたような【自分のやりたい看護ができています】【病院の特性が自分の性格に合っている】といった就職して良かったという肯定的な意見は少なかった。その一因として就職先選択の際にイメージが先行し、十分な自己分析や病院検討がされていなかった傾向が考えられる。

また、【教育体制の整った東部の病院で働きたい】【若いうちにしっかり経験を積みたい】【最初に大病院で就職した方が有利である】【実習中に出会った先輩看護師に憧れた】【管理者による魅力的な就職ガイダンスを受けた】【しっかりと看護実践をしている病院で働きたい】【実習時の看護師の良いイメージがある】【周りがうらやむ病院で働きたい】【7対1体制をとっている病院でゆとりのある看護を学んで実践したい】からは実習や講義、就職ガイダンスなどのイメージから、東部地区の病院の方が医

療，教育，人材共に優れているイメージを形成していると考えられる。就職先病院選択で重視した項目は，院内教育制度が最も高いという報告（鈴木，2012）や，病院から就職前に得たい情報の上位に教育内容があがっている（増田，2010）ことから就職先選択要因の中では卒後教育を重視している傾向にある。最近では専門看護師や認定看護師への志向も高まり，自分のキャリア発達を重視して就職先を選択していることも考えられる。

【東部と比較して西部の病院は医療体制が十分でない】【西部地域での医師不足や看護師不足などの情報をもつマイナスイメージがある】【西部の病院は教育体制が十分でない】のカテゴリからも，西部地区の医療体制のマイナスイメージが先行するからこそ西部地区への就職を選択しておらず，西部地区と東部地区の医療格差を感じたり，東部地区の病院の方が医療体制や教育体制が整っているというイメージを抱いていることが言える。このような考察から，本学ができる支援としては【西部の医療の現状に関心が向くような伝え方をする】【学校から西部の病院の情報を提供する】のカテゴリにもあるように，西部地区の医療の現状について知る機会を設けることで正しい情報を伝え，学生が公平な状況の中で就職先を選択できるような支援をしていく必要があると考えられる。

## 2. 西部地区就職者の就職先選択要因について

西部地区就職者は，東部地区就職者と同様【住み慣れた地元の病院で働きたい】【知人が就職病院で働いている】【実家から通勤できる】【親元にいたら安心できる】【同じ病院に就職する仲間がいた】のカテゴリが示すように，“馴染み”の関係や場所を求めて就職先を選択していた。また，【地元地域に貢献したい気持ちがある】【お世話になった人に恩返しをしたい】【地元が好き】のカテゴリからもわかるように，地元への郷土愛や献身的な意識を持って就職先を選択していることが明らかになった。また，特に興味深いことは【西部に帰って就職するだろうという漠然とした感情がある】が根底にある点である。地元へ帰って就職するのには特に決定的な理由があるわけでもないが，“地元で就職す

るものだ”という思いを昔から持ちながら自己決定していた。

西部地区就職を選択して良かったことは，14カテゴリ，28記録単位と，東部地区就職者と比べて多数抽出された。【少人数の新人就職者だから大切に育ててもらえる】【ゆっくりとした教育体制である】【自分のやりたい看護ができていく】【病院規模が小さく人とのつながりが密である】【少人数の新人就職者だから比べられず連帯感が出る】【就職病院に誇れる活動がある】【病院の特性が自分の性格に合っている】【系列施設が多くライフスタイルに合わせて働ける】より，周囲の友人の動向やイメージに流されることなく，自分の適性ややりたい看護について明確にした就職先選択の結果，就職して良かったと思えることが多く，働き続けようという意志につながっているのではないかと考えられる。

西部地区への就職率増加につながることであったことに，【各病院のアピールポイントをつくる】【魅力的な就職ガイダンスをする】【西部の医療の現状に関心が向くような伝え方をする】がある。本学のキャリア支援として，入学から卒業まで系統立ったキャリア支援を実施し就業力を養成することや学生の進路決定の支援を目的に，短期大学部ではこれまでキャリア委員会の活動として進路セミナーを実施している。今後も現場で働いている看護師の話を聞ける場として島根県全体の医療の現状を正しく伝えるとともに，各病院の取り組みで力を入れていることや，就職後にどのような看護を実践できるのかということを知ってもらう場として続けていきたい。また，情報を提供する教員自身が西部地区の病院について知り，どのような特色ある看護実践がなされているのかについて学生に伝えることができるように意識をもつ必要がある。そして【卒業生の先輩と個別に話す機会を設ける】とあるように，実際に働く人の話を聞いた方がイメージしやすいということからも，本学キャリア委員会で今後実施していく「OB・OG訪問マッチングサービス」は学生個々のキャリアデザインを考えていく上では大変重要になってくると考える。「OB・OG訪問マッチングサービス」とは，在学生が



志望先施設に勤務する先輩に仕事の内容や施設の雰囲気等を直接聞き、自らの就職活動に役立てること、またより一層先輩・後輩の繋がりを活かした就職支援実施を目的としている。さらに自分の価値観や看護観を明確にするための参加型研修を実施していきたい。そして、卒業後にどのような看護師として成長していきたいのか、学生に様々な選択肢を持たせ、イメージした上で自分のやりたい看護を見つけていけるよう、在学中から病院と本学が連携を図りながら支援していく必要がある。

### 3. 鳥根県立大学に求める支援

本学に求められている支援としては、多かつたものとして【実習を通して西部の病院の看護を知る機会を設ける】がある。学生にとっては“自分に合った職場”を見出していくために実習の場を活用するのは有効であると考えられ、限局的ではなく、鳥根県のあらゆる病院での実習が実施できれば、自分の目で看護の実際を知り就職先の選択肢として西部地区の病院を検討することもできるであろう。そこで自分のやりたい看護を見出し、意志を持って就職先を選択できれば早期離職も防げ、看護師としてのキャリア構築に結びつくと考えられる。

【自分の目で西部の地域医療の課題を知る機会を設ける】については、今年度より開講されている「鳥根の地域医療」の科目が該当する。これは、鳥根県内の島嶼地域や中山間地域における保健医療福祉の実践活動に触れ、地域医療への理解と関心を深めることを目的に行われており、学生のニーズに合致していると言える。【自分の目で西部の病院を知る機会を設ける】ためには、講義やサークル活動などで実際に自分の目で見るのが大切であるとする。

【西部で看護学科を開設する】【浜田キャンパスで看護系大学院を開設する】とあるように、西部地区の活性化に向け高等教育機関があることは重要と考える。本学として今後検討可能なこととして、サテライト制度を設けたり、卒業生・修了生フォローアップ支援など、病院と連携を図りながら、継続して卒業後もキャリア支援できる仕組みを作っていきたい。

## VI. まとめ

今回、鳥根県西部地区出身の看護学生の就職先選択要因について明らかにした。今後は西部地区の病院と連携を図りながら、学生が積極的に病院について知っていくことに加えて、自己の価値観や看護観について明確にできるような機会をもち、自分に適した就職先を選択できるような支援をしていく必要がある。

また、学生が卒業後に安心してそれぞれの就職先で成長できるような本学のフォローアップ体制についてさらに検討していく必要がある。

## 謝 辞

本調査にご協力くださいました本学卒業生の皆様に深く感謝申し上げます。

## 文 献

- 増田信代, 田原裕子, 島田真由美, 他 (2010): 3年過程の看護学生が就職先を決める決定因子 - A 県における看護専門学校の3年次生に対する意識調査 -, 第41回日本看護学会論文集 (看護管理), 75-82.
- 鳥根県 (2011): 鳥根県地域医療再生計画 鳥根県地域医療再生計画 (本文), 2013-09-05, [http://www.pref.shimane.lg.jp/life/kenko/iryo/shimaneno\\_iryosaiseikeikaku/saiseikeikaku.html](http://www.pref.shimane.lg.jp/life/kenko/iryo/shimaneno_iryosaiseikeikaku/saiseikeikaku.html)
- 鳥根県健康福祉部医療政策課 (2012): 県内病院における看護職員実態調査 平成24年度調査結果概要, 2013-09-05, [http://www.pref.shimane.lg.jp/life/kenko/iryo/shimaneno\\_iryobyoin\\_kango\\_jitaichosa.html](http://www.pref.shimane.lg.jp/life/kenko/iryo/shimaneno_iryobyoin_kango_jitaichosa.html)
- 鈴木恵, 澤田和美, 本多和子, 他 (2012): 看護短期大学生の23年度就職状況と病院選択基準に関する考察, 横浜創英短期大学紀要, 8, 73-79.

# Survey on Employment Selection Factors of Nursing Students in Shimane Western District

Yuko TATANO, Tomoko HIRATSUKA, Teruko ISHIBASHI  
Reiko KANO, Fumie BESSHO, Maki KATO, Ayumi ISHIBASHI  
Kanao SAKANE, Koin YADOMI and Hidekazu UEDA

**Key Words and Phrases** : Shimane Western District, Nursing Students  
Workplace, Selection Factors